

IBM ThinkPad 770 ユーザーズ・ガイド補足資料

IBM ThinkPad 770 ユーザーズ・ガイド補足資料

第 1 版 (1997 年 9 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典：	V05K-7604-00 IBM ThinkPad 770 User's Guide Supplement
発 行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1997.9

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

以下のセクションは、*ユーザーズ・ガイド*に記載されている情報を補足するものです。

デジタル・オーディオ出力ポートを使用する	1
始動パスワードまたは HDD パスワードを変更する	2
始動パスワードまたは HDD パスワードを削除する	3
ドッキング・ステーションの IDE ドライブを使用可能にする	7
3 チャンネル IDE モードに設定する	7
2 チャンネル IDE モードに設定する	8
ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能	4
サポートされる装置 (オペレーティング・システム別)	4
装置の制約事項	5
Windows 95 の各種バージョンを導入する	10
バージョン OSR0 および OSR1	10
バージョン OSR2.1	11
OS/2 Warp を導入する	12
電話機能についての考慮事項	13
ニュージーランドの RingCentral アプリケーションの設定	13
呼出し元 ID サポートについての注意事項	13
ヒント	14
サスペンド・モードでファクシミリまたはメールを受信する	14
セレクトドック III へのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング	14
USB ポートの考慮事項	14
PCMCIA カードのホット・プラグ接続/切離し	15
2 つ目の CardBus カードを使用する	15
バッテリー電源操作時にバッテリーを変更する	15
Crystal オーディオ装置構成を変更する	16
OS/2 で COM ポートを使用する	17
外付けコンデンサー・マイクロフォンを使用する	17
NetMeeting ソフトウェアを使用する	17
ベイ・イジェクト・レバーを使用する	18
特記事項	19
製品の特記事項	19

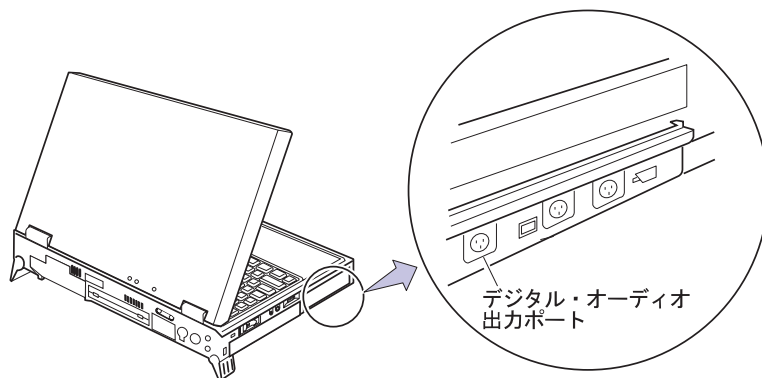
デジタル・オーディオ出力ポートを使用する

本体横のデジタル・オーディオ出力ポートはドルビー** デジタル・オーディオを出力します。このポートに一般のデジタル・オーディオ・プロセッサを接続することにより、ホームシアターなどでマルチチャンネルのサラウンド・オーディオを楽しむことができます。

DVD 拡張ビデオ・アダプターが標準装備されているモデルまたはオプションにてとり付けた場合に利用することが出来ます。

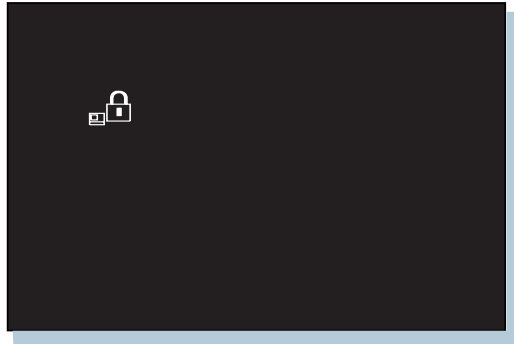
この機能を使用するには、オプションの DVD ドライブ、およびこのオプションに付属のソフトウェアが必要です。使用方法については、このオプションに付属のユーザズ・ガイドを参照してください。

注: デジタル・オーディオ出力ポートと外付のデジタル・プロセッサの接続には、本体または DVD 拡張ビデオ・アダプターに同梱のビデオ入出力ケーブルが利用できます。



始動パスワードまたは HDD パスワードを変更する

- 1 コンピューターの電源をオフにし、5 秒以上待ってから電源を再びオンにします。すると、パスワード・プロンプトが表示されます。

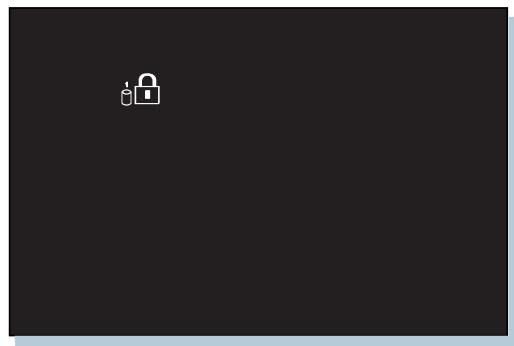


注: 始動パスワードのプロンプトと HDD パスワードのプロンプトは少し異なっています。上記のプロンプトは始動パスワードのプロンプトです。

- 2 現行のパスワードを入力してから、スペース・バーを押します。
- 3 新しいパスワードを入力してから、スペース・バーを押します。
- 4 新しいパスワードをもう一度入力して確認してから、**Enter** を押します。
これでパスワードが変更されました。

始動パスワードまたは HDD パスワードを削除する

- 1 コンピューターの電源をオフにし、5 秒以上待ってから電源を再びオンにします。すると、パスワード・プロンプトが表示されます。



注: 始動パスワードのプロンプトと HDD パスワードのプロンプトは少し異なっています。上記のプロンプトは HDD パスワードのプロンプトです。

- 2 現行のパスワードを入力してから、スペース・バーを押し、次に **Enter** を押します。これでパスワードが削除されました。

ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能

ThinkPad 770 コンピューターでは、ウルトラベイII (UltraBay II) で装置の接続または切離しを電源を切らずに行う (ホットまたはウォームのプラグ接続または切離し) ことができます。

ホット・プラグ接続または切離しとは、コンピューターの電源をオンにしたままで装置の接続または切離しを行うことです。

ウォーム・プラグ接続または切離しとは、コンピューターがサスペンド・モードのときに装置の接続または切離しを行うことです。

LED ランプが点灯し、ピープ音が鳴ります。LED の色が示す意味については、*ユーザーズ・ガイド* の『LED の色が示す意味について』を参照してください。

サポートされる装置 (オペレーティング・システム別)

ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能をサポートする装置は、オペレーティング・システムごとに次のとおりです。

OS/2 および Windows NT 3.51

	バッテリー	ディスク ケット・ ドライブ	HDD	CD- ROM ドライブ	DVD ドライブ
ホット・ プラグ 接続/ 切離し	サポート	サポート	サポート しない	サポート しない	サポート しない
ウォーム・ プラグ 接続/ 切離し	サポート	サポート	サポート しない	サポート	サポート

Windows 95 および Windows NT 4.0

	バッテリー	ディスク ケット・ ドライブ	HDD	CD- ROM ドライブ	DVD ドライブ
ホット・ プラグ 接続/ 切離し	サポート	サポート	サポート しない	サポート	サポート
ウォーム・ プラグ 接続/ 切離し	サポート	サポート	サポート しない	サポート	サポート

注:

1. OS/2 または Windows NT 3.51 では、ホットまたはウォームのプラグ接続/切離しを装置に行うときに、LED が点灯しなかったり、ピープ音が聞こえなかったり、メッセージが表示されない場合があります。
2. 2 チャンネル IDE モード (9 ページの表を参照) では、IDE 装置 (CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブ) のホットまたはウォームのプラグ接続/切離し機能はサポートされていません。

装置の制約事項

一部装置に対する制約事項は次のとおりです。

1. ディスケット・ドライブについて
ドライブ A が外付けディスク・ドライブに割り当てられている場合は、ウルトラベイ II (UltraBay II) でディスク・ドライブのホット・プラグ接続/切離しを行うことはできません。外付けディスク・ドライブとは、システムまたは セレクタベース 770 (ポート・リプリケーター) の外付けドライブ・ポートに接続されているドライブ、もしくはドッキング・ステーションに取り付けられているドライブです。
これは、次の状態に起こり得ます。

外付けディスク・ドライブが接続され、ウルトラベイ II (UltraBay II) にはディスク・ドライブがない状態でシステムが始動する場合。

PS2.EXE を使用して FDD 設定値を External (外付け FDD) に設定し、内蔵ドライブを (ウルトラベイ II (UltraBay II) に) 導入せず、外付けディスク・ドライブも接続されていない状態でシステムを始動する場合。

2. その他の IDE 装置について

HDD:

ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能を使用することはできません。

CD-ROM ドライブおよび DVD ドライブ:

2 チャンネル IDE モードでホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能を使用することはできません。9 ページの表を参照してください。

3. バッテリーについて

システムがセカンド・バッテリー電力で作動している場合、電源がオンの状態でこのセカンド・バッテリーを UltraBay から切り離さないでください。電源がオフになる場合があります。セカンド・バッテリーがウルトラベイ II にインストールされたセカンド・バッテリーのみで動作している状態は、以下の場合に生じます。

AC アダプターが接続されず、1 次バッテリーがない。

AC アダプターが接続されず、1 次バッテリー電力が低い。

ご使用のコンピューターが 2 次バッテリー電力で作動しているかどうかを調べるには、LCD 表示パネルのバッテリーの状況表示ランプを調べてください。

ドッキング・ステーションの IDE ドライブを使用可能にする

ドッキング・ステーションに IDE 装置 (たとえばハード・ディスクや CD-ROM ドライブ) が導入されている場合、コンピューターの設定値を変更してこの装置を使用可能にする必要があります。デフォルトでは、コンピューターは 1 次ハード・ディスク (1 次マスター) には 1 次 IDE チャンネルを使用し、UltraBay II の装置 (2 次マスター) には 2 次 IDE チャンネルを使用します。このデフォルトの **2 チャンネル・デフォルト IDE モード** では、ドッキング・ステーションで IDE 装置を使用することができません。

ドッキング・ステーションで IDE 装置を使用可能にするには、デフォルトの **2 チャンネル・デフォルト IDE モード** を以下のいずれかのモードに変更する必要があります。

3 チャンネル IDE モード

2 チャンネル IDE モード

3 チャンネル IDE モードでも、ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能を使用することができます。3 番目の IDE チャンネルには IRQ を追加する必要があります。

2 チャンネル IDE モードでは、追加の IRQ を割り当てる必要はありませんが、ホットおよびウォームのプラグ接続/切離し機能を使用することはできません。

注: IDE チャンネル構成を変更すると、ドライブ名の割当てが変更される場合があります。

3 チャンネル IDE モードに設定する


1 ThinkPad 機能設定プログラム をオープンします。

2 ドッキング・ステーション () ボタンをクリックします。

3 PCI デバイス用の IRQ の IRQ 値を、IRQ 11 または 15 以外の値に変更します (IRQ 9 が推奨値です。)

- 4 拡張ユニットの **IDE** デバイスを使用する を選択します。リスト・ボックス内のサード・チャンネルが選択されていることを確認します。デフォルトでは、サード・チャンネルが自動的に選択されます。
- 5 設定 をクリックしてダイアログ・ボックスをクローズします。
- 6 警告ダイアログ・ボックスで **OK** を選択すると、システムが再始動します。

2 チャンネル IDE モードに設定する

- 1 **ThinkPad** 機能設定プログラムをオープンします。
- 2 ドッキング・ステーション () ボタンをクリックします。
- 3 **PCI** デバイス用の **IRQ** の **IRQ** 値を **IRQ 11** 以外の値に変更します。
- 4 拡張ユニットの **IDE** デバイスを使用する を選択します。3 番目の **IDE** が自動的に選択されます。
- 5 **IDE** チャンネル選択リスト・ボックスで **セカンド・チャンネル (2 次チャンネル)** を選択します。
- 6 警告メッセージ・ダイアログ・ボックスで **使用しない** をクリックします。
- 7 設定 をクリックしてダイアログ・ボックスをクローズします。
- 8 警告ダイアログ・ボックスで **OK** を選択すると、システムが再始動します。
必要に応じて、**PCI** に割り当てられている **IRQ** 値を **11** に変更します。

次の表は、装置と **IRQ** 値との関係を示しています。

装置	2 チャンネル IDE デフォルト・モード	3 チャンネル IDE モード	2 チャンネル IDE モード
HDD	IRQ 14、P-M	IRQ 14、 P-M	IRQ 14、 P-M
UltraBay II	IRQ 15、S-M	IRQ 15、 S-M	IRQ 14、 P-S
ドッキング・ ステーション	使用不可	IRQ 11、 T-M および T-S	IRQ 15、 S-M および S-S

凡例:

1. P-M: 1 次マスター
2. P-S: 1 次スレーブ
3. S-M: 2 次マスター
4. S-S: 2 次スレーブ
5. T-M: 3 次マスター
6. T-S: 3 次スレーブ

Windows 95 の各種バージョンを導入する

ThinkPad 770 では以下のバージョンの Windows 95 を使用することができます。

- 店頭で販売されているバージョン (OSR0)
- サービス・パック・バージョン 1 (OSR1)
- OEM サービス・リリース・バージョン 2.1 (OSR2.1)

OSR0 は、Windows 95 の最新のバージョンであり、店頭で入手することができます。OSR1 バージョンは、Microsoft のインターネット・ホームページ (<http://www.microsoft.com>) からダウンロードすることができます。OSR2.1 のバージョンは、プリインストール版としてのみ入手可能です。ThinkPad 770 には OSR2.1 が初期導入されています。ThinkPad 770 には、上記の Windows 95 の発表時に利用できなかった新しい装置が複数組み込まれているため、上記の Windows 95 の導入または再導入の場合には特別な注意が必要です。

バージョン OSR0 および OSR1

- 1** ディスケット・ファクトリー・プログラムを使用して、Windows 95 修正ファイル・ディスクを作成します (「IBM ThinkPad 770 技術情報」内の「Windows 95 用ソフトウェアのインストール」を参照してください)。
- 2** ハード・ディスクにキャビネット・ファイルおよび導入プログラムを保管できる十分なスペースがあることを確認します (必要なスペースは Windows の言語によって異なる場合があります)。
- 3** 一時ディレクトリーを作成します。
たとえば、DOS プロンプトで次のように入力します。

```
MD C:¥WIN95
```
- 4** Windows 95 CD-ROM の ¥WIN95 ディレクトリーからこのディレクトリーへキャビネット (.CAB) ファイルおよび導入プログラムをすべてコピーします。
たとえば、DOS プロンプトで次のように入力します。


```
COPY src_cd:¥WIN95¥ .   tgt_drv:¥tgt_dir
```

この場合、src_cd は CD-ROM ドライブのドライブ名 (C, D,...)、tgt_drv はドライブ名、tgt_dir はステップ 3 で作成した一時ディレクトリーです。

- 5** Windows 95 補足ディスクをディスク・ドライブに挿入し、更新されたファイルをこの Windows 95 補足ディスクから一時ディレクトリーへコピーします。

たとえば、DOS プロンプトで次のように入力します。

```
COPY a:¥OSR INF¥ .   tgt_drv:¥tgt_dir
```

この場合、tgt_drv はドライブ名であり、tgt_dir はステップ 3 で作成した一時ディレクトリーです。

- 6** 一時ディレクトリー・プロンプトで SETUP.EXE と入力して、オペレーティング・システムをこの一時ディレクトリーに導入します。
- 7** Windows 95 の資料および画面に表示された指示を参照して、導入を完了します。
- 8** 必要に応じて、Microsoft インターネット・ホーム・ページから入手できる OSR1 バージョンを導入します。
- 9** 必要に応じて、導入の完了後に一時ディレクトリー内のすべてのファイルおよびディレクトリー自体を削除して、ハード・ディスクのスペースを解放します。

バージョン OSR2.1

Windows 95 の再導入にについて (ThinkPad 770 用) を参照してください。

OS/2 Warp を導入する

4.3 GB 以上の容量を持つハードディスクをお使いになる場合は、Warp version 3.0 では FixPak WX03005 以降を、Warp 4 では FixPak FX0002 以降を適用してください。

電話機能についての考慮事項

ニュージーランドの RingCentral アプリケーションの設定

RingCentral¹ プログラムを使用すると、呼出しに応答する前に鳴る着信メッセージの呼出し音の数を設定することができます。

この値を設定するには、RingCentral メニューから以下を選択します。

Options - Answering - Ring Options

以下のフィールドの x と y の値は、2 ~ 5 でなければなりません。

Answer after x rings if there are new messages.
Answer after y rings if there are no new messages.

呼出し元 ID サポートについての注意事項

ユーザーズ・ガイドの“電話機能”のセクションには、“呼出し元 ID を使用する装置に対する応答”機能のサポートについて記載されています。この機能が使用できるのは、呼出し元 ID サービスが使用可能な場合だけです。現在のところ、このサービスが利用できるのは米国とカナダのみです。

¹ RingCentral は Ring Zero System Inc の登録商標です。

ヒント

サスペンド・モードでファクシミリまたはメールを受信する

OS/2 で着信ファクシミリまたはメールを受信するには、ファクシミリ・アプリケーションのモデム設定値を次のいずれかに設定する必要があります。

ハードウェア FIFO が使用可
ハードウェア・フロー制御がオン
UART 16550A モデム

たとえば、OS/2 FaxWorks では、**Utilities** (ユーティリティー)、**Settings** (設定値)、**Modem Type** (モデム・タイプ)、および **Use HW FIFO (16550A)** を選択します。

モデムをこうした設定値のいずれかに設定しない場合、サスペンド・モードで着信ファクシミリまたは着信呼出しを受信することができません。

セクタドック III へのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング

Windows 95 の場合

特定の PCI カード、PnP ISA カード、および PCMCIA カードがドッキング・ステーションに導入されている場合、セクタドック III (拡張ユニット機能) ドッキング・ステーションへのコンピューターのホットまたはウォームのドッキングができない場合があります。こうした状態が生じる場合には、システムをコールド・ブートしてください。

USB ポートの考慮事項

セクタドック III (拡張ユニット機能) ドッキング・ステーションの PCI カードについて

コンピューター上の USB ポートの設定値が使用可 (デフォルト値) である場合、セクタドック III (拡張ユニット機構) ドッキング・ステーションで PCI ビデオ・カードと PCI ネットワーク・カードを同時に使用しないでください。両方のカードが挿入されていると、システムがブートできません。

セレクトドック III (拡張ユニット機構) ドッキング・ステーションの USB ポート設定値について

セレクトドック III (拡張ユニット機構) の USB ポートを使用不可の設定にしないでください。使用不可にすると、ホット・ドッキングやウォーム・ドッキング操作時またはドッキング解除操作時にシステムが停止する可能性があります。こうした状態が生じる場合には、システムをコールド・ブートして回復させてください。

USB 装置が使用不可の場合

コンピューターがサスペンド・モードに入ろうとすると、この要求が拒否されると、USB ポートの装置が使用不可になる場合があります。これが生じる場合、USB 装置に対してホット・プラグ切離し/接続操作を行ってください。

PCMCIA カードのホット・プラグ接続/切離し

コンピューターがスタンバイ・モードから通常の操作に戻った後、ドッキング・ステーションのスロット内にある特定のネットワーク PCMCIA カードにホット・プラグ接続/切離し操作を行うことはできません。この問題を解決するためには、システムをリブートしてください。

2 つ目の CardBus カードを使用する

CardBus カードがコンピューター内またはドッキング・ステーション (セレクトドック III (拡張ユニット機構) または PC カード・イネーブラー・オプション) 内ですでに構成済みである場合、2 つ目の CardBus カードを使用するには、デバイス・マネージャーを使用して手動で 2 つ目の CardBus を構成する必要があります。デバイス・マネージャーを使用するには、コントロール・パネルの **System** (システム) アイコンをクリックしてください。

バッテリー電源操作時にバッテリーを変更する

メイン・バッテリーからセカンド・バッテリーへ切り替える場合

- 1** セカンド・バッテリーが入ったバッテリー・パックを UltraBay II に挿入します。
- 2** ベイ・イジェクト・レバーがロックされていることを確認します。

- 3** 表示パネルのディスチャージ記号 (▶) がメイン・バッテリー (1) アイコンからセカンド・バッテリー (2) アイコンに移動するまで待ちます。

これで、バッテリー・ベイからメイン・バッテリーを取り外すことができるようになりました。

2 次バッテリーを交換または取り外す場合

- 1** UltraBay II のロックを解除します。

- 2** ディスチャージ記号 (▶) が2 次バッテリー (1) アイコンからメイン・バッテリー (2) アイコンに移動するまで待ちます。これには数分間かかります。

これで、セカンド・バッテリーを取り外すことができるようになりました。

注: この記号が移動しない場合、メイン・バッテリー (1) が充電されていないことを示しているため、セカンド・バッテリーを取り外すことはできません。

Crystal オーディオ装置構成を変更する

Windows NT 3.51 でオーディオ構成を変更するには、以下を行います。

- 1** ThinkPad 機能設定プログラムを使用してオーディオ資源を変更します。
- 2** まだコンピューターを再始動しないでください。
- 3** コントロールパネル および ドライバ をダブルクリックします。
- 4** **CrystalWare Audio Driver** を選択して、ボタンをクリックします。
- 5** オーディオ資源の設定値を変更します。
- 6** コンピューターを再始動して、変更内容を有効にします。

OS/2 で COM ポートを使用する

ThinkPad 構成プログラムを使用してこのポートを正しくセットアップしても COM ポートが動作しない場合は、以下を行ってください。

- 1** System Setup (システム設定) に進みます。
- 2** Hardware Manager (ハードウェア・マネージャー) を選択します。
- 3** メニュー項目から **Folder** (フォルダー) を選択します。
- 4** **Properties** (プロパティ) を選択します。
- 5** デフォルトのプルダウン・メニューで、**NO HARDWARE DETECTION** を選択するか、またはすでに選択されている場合は設定値を変更します。
- 6** ThinkPad 構成プログラムを開始します。
- 7** ニーズに合わせて COM ポートを設定します。
- 8** システムをリブートします。

外付けコンデンサー・マイクロフォンを使用する

マイクロフォン/ラインイン・ジャックは、以下のタイプのマイクロフォンをサポートします。

ダイナミック・マイクロフォン
バッテリー内蔵型コンデンサー・マイクロフォン

エレクトレット・コンデンサー・マイクロフォンを使用したい場合は、独自の電源を供給するものを使用する必要があります。

NetMeeting ソフトウェアを使用する

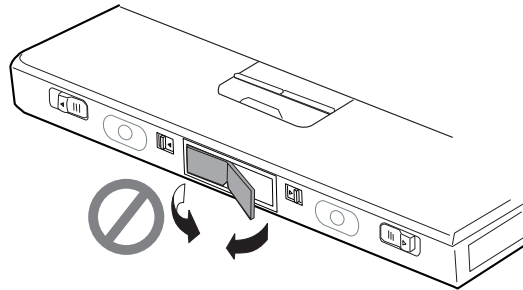
NetMeeting でビデオ電話を切ろうとすると、“An exception OE has occurred in VxD VWIN32(1)...” という Windows の例外エラー・メッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示されるのは、電話回線を通じて直接ビデオ電話をかけるときに、ホワイトボード、ファイル転送、チャット、およびアプリケーション共用などのデータ共用ツールを使

用した後だけです。このエラーが発生する場合には、Windows を遮断し、コンピュータを再始動してください。インターネット・ビデオ会議ソフトウェア用の Intel Video Phone を使用する場合には、このエラーは発生しません。

ベイ・イジェクト・レバーを使用する

14.1 インチ・モデルの場合

一度に 1 つのイジェクト・レバーしか使用することができません。イジェクト・レバーを開く場合は、他のイジェクト・レバーがクローズされていることを確認してください。



特記事項

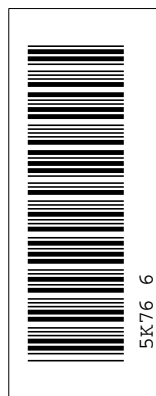
製品の特記事項

次の特記事項は、DVD 拡張ビデオ・アダプターを備えたモデルに適用されます。

この装置は、米国特許番号 4,631,603、4,577,216、および 4,819,098、ならびにその他の知的所有権によって保護されています。この装置で Macrovision 社のコピー・プロテクト技術を使用するには、Macrovision 社の許可が必要であり、Macrovision 社による書面による別段の許可がある場合を除いて、家庭用およびその他の限定有料視聴用のみを目的としています。リバース・エンジニアリングもしくは分解は禁止されています。

部品番号: 05K7606

Printed in Japan



日本アイビーエム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106
TEL (03) 3586-1111



SA88-598 -